

Title	$y \cdot dy/dx = A(x)y + B(x)$ 二就テ
Author(s)	福原, 満洲雄
Citation	全国紙上数学談話会. 46 p.1-p.7
Issue Date	1935-06-25
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/74079
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

$$157. \quad y \frac{dy}{dx} = A(x)y + B(x) = \text{就テ}$$

福原満洲雄 (北大)

1. $A(x), B(x)$ が $x \rightarrow +\infty$ ノ時

$$(1) \quad \begin{cases} A(x) \sim a_{-m}x^m + a_{-m+1}x^{m-1} + \dots \\ B(x) \sim b_{-n}x^n + b_{-n+1}x^{n-1} + \dots \end{cases}$$

ナル形 = 近似的 = 展開サレ、 $2m+1 < n$ 且ツ n ハ奇數 (n が偶數ナラバ x ヲ x^2 デ置キ換ヘレバヨイ) ナラバ

$$(a) \quad y \frac{dy}{dx} = A(x)y + B(x)$$

ヲ形式的 = 満足スルヤウ =

$$(2) \quad y \sim x^p \left\{ \alpha_0 + \dots + \frac{\alpha_j}{x^j} + \dots \right\}$$

ヲキメルコトが出来ル。但シ

$$p = \frac{n+1}{2}, \quad \alpha_0 = \pm \sqrt{\frac{2b_{-n}}{n+1}}$$

デ $\alpha_1, \dots, \alpha_n$ ハ常數, α_{n+1}, \dots ハ $p \log x + C$ (p ハ一般 = 0 デナイ キマツタ常數, C ハ任意常數) ノ整多項式デアル、ソノヤウナ $\alpha_1, \dots, \alpha_n, \alpha_{n+1}, \dots$ ノキメ方ハ唯一通りデアル。コレハ單 = 形式的ノ形算 = 依テ得ラレル事柄 = 過ギナイ。

I. (2) ヲ近似展開トスル (a) ノ解ハ唯一ツ存在スル、逆 = (a) ノ解ハイザレモ (2) ナル近似展開ヲ許ス。

II. $x_0 \leq x < +\infty$ デ分岐点ヲ持ツ (即チ $y=0$ トナル) (a)ノ解ガ $x=x_0$ デ取ル値ヲ y_0 トシタトキ $y_0/x_0^{\frac{n+1}{2}}$ ナル点ノ集合ハ両端ガ ∞ マデ伸ビテキルーツノ曲線 L トナリ、 x_0 ガ $+\infty$ ニ近ヅクニ從ツテ L ハ $\pm\sqrt{\frac{2b-n}{n+1}}$ ヲ結ブ線分ノ垂直二等分線ニ限りナク近ヅク。

III. L ニ依テ平面ガニツノ領域ニ分レル、其ノ中デ $\sqrt{\frac{2b-n}{n+1}}$ ヲ含ム方ヲ D_1 , $-\sqrt{\frac{2b-n}{n+1}}$ ヲ含ム方ヲ D_2 トスレバ、 $y(x_0)/x_0^{\frac{n+1}{2}}$ ガ D_1 ニ屬スルヤウナ (a)ノ解ノ近似展開ハ $\alpha_0 = \sqrt{\frac{2b-n}{n+1}}$ トナリ、 $y(x_0)/x_0^{\frac{n+1}{2}}$ ガ D_2 ニ屬スルヤウナ (a)ノ解ノ近似展開ハ $\alpha_0 = -\sqrt{\frac{2b-n}{n+1}}$ トナル。

IV. $y(x_0)/x_0^{\frac{n+1}{2}}$ ガ L ノ上ニアルヤウナ (a)ノ解ハ $x_0 \leq x < +\infty$ デ分岐点ヲ持ツカラ 之カラ先ハ y ノ取ル値ガニツアル、ソノ中一方ノ近似展開ハ $\alpha_0 = \sqrt{\frac{2b-n}{n+1}}$ トナリ、他方ノ近似展開ハ $\alpha_0 = -\sqrt{\frac{2b-n}{n+1}}$ トナル。

以上ハ數理物理學會ノ年會デ報告シタ所デ、其ノ際此等ノ結果ハ解ノ存在定理カラ導カレルコトモ注意シタ、更ニ進ンデ

V. 近似展開 (2)ガ含ム任意常數 C ノ取ル値ハ (a)ノ解 $y(x)$ ガ x_0 デ取ル値 y_0 ニ依テキマルカラ、 C ハ x_0, y_0

ノ函数ト見做セル、其ノ時

$$|C| < K |x_0|^{\frac{n+1}{2}} |y_0|$$

が成立スル、但シ K ハ x_0, y_0 = 関係シナイ常數デアアル。

VI. 近似展開 (1) が

$$\Omega < \arg x < \Omega', \quad x \rightarrow \infty$$

が成立スルナラバ近似展開 (2) モ同ジ所が成立スル。

等々、皆同様ノ方法で証明サレル。

2. 併シ問題ハ以上で終ツタワケデハナイ、 ∇ モモット詳シクナルデアラウ。 $A(x), B(x)$ が x ヲ極トスルトキ級数 (2) ノ収斂性モ問題ニナルデアラウ。一般ニ正確ニ解ケナイノデアアルカラ、近似的ニ解クノデアリ、コリ精密ナ結果ヲ要求スレバスル程問題ハ複雑多岐ニ亘リ、何処マデ行ツテモコレで完全ト言ヘル筈ノモノデハナイが、目標ヲ何処ヘ置クカラハツキリキメレバ、ソレニ應ジテ其ノ目的ニハドレダケ調べレバ十分デアアルカがワカッテ來ル。目標ヲ定メナケレバ研究ノ方針ハ立タナイ、ソコデ差當ツテ現在ノ目標ヲ次ニ述ベル *Malmquist* ノ定理ノ擴張ニ置カウト思フ。

『 $R(x, y)$ が $x = \infty$ デ正則ナ函数ヲ係数トスル y ノ有理函数デアアル時

$$(A) \quad \frac{dy}{dx} = R(x, y)$$

が $x = \infty$ デ一價超越解ヲ持テバ (A) ハ *Riccati* ノ方

程式デアル』

此ノ定理ニ於ケル一價トイフ假定ヲ除カウトイフノが目的デアル、ソノ結果結論ニ変更ヲ要スルノハ當然デアラウ、ソコデ私ノ予想ヲ先ニ述ベテ置カウ。

『 $R(x, y)$ が $x = \infty$ デ正則ナ函数ヲ係数トスル y ノ有理函数デ (A) が *Riccati* ノ方程式デナケレバ、 $x = \infty$ ノ近傍デ (∞ ヲ除ク) 分岐点ヲ持タナイ (A) ノ解ニ對シテ $x = \infty$ ハ正則点カ、代數的特異点カ、通常超越点 (*point transcendant ordinaire*) デアル』

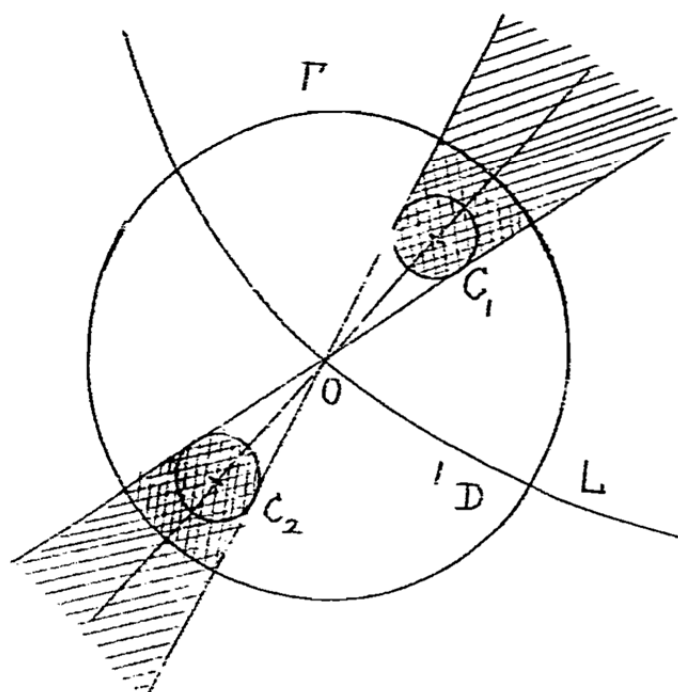
通常超越点トハドンナ路ニ沿ツテ近ヅイテモ函数ノ取ル値ガ一定値ニ收斂スルヤウナ超越特異点ヲイフノデ、例ヘバ $\log x$ ノ $x = 0, \infty$ ノ如キガソレデアル、サウデナイ超越特異点ヲ眞性超越点 (*point transcendant essentiel*) トイフ。

前述ノ *Malmquist* ノ定理ヲ基礎トシテ彼ハ一階常微分方程式ニ關スル *Painlevé* ノ問題ニ見事ニ解決ヲ與ヘタガ、ソノ定理ノ中ニ一價トイフ假定ガアルタメニ完全ニ解決ニ達シテ居ルトハ思ハレナイ、若シ予想定理ガ正シイナラバ *Malmquist* ノ結果ヨリ先ニ進ムコトガ出來ル。*Painlevé* ノ問題ニ關シテハ後日マタ触レル機會ニアルデセウカラ、再ビ微分方程式 (a) ニ戻ルコトニシヨウ。

3. 微分方程式 (a) の場合 $= 2m+1 < n$ ナラバ予想定理ハ正シイ。結論ヲ先ニ述ベレバ、「 $x=\infty$ ノ近傍デ分岐点ヲ持タナイ解ハ $x=\infty$ ヲ極トシテ持ツ」此ノ場合注意スルマデモナク、(1) ハ近似展開デナク $A(x)$, $B(x)$ ノ *Laurent* 級数デアル、以下証明ノ順序ヲザツト述ベル。

$$(i) \pm \sqrt{\frac{2b-n}{n+1}} \text{ヲ}$$

中心トシ半径 δ ノ円 C_1, C_2 ヲ描キ、 C_1, C_2 ト共通ナ点ヲ持タナイ線分デ原点 O ト結ベル点ノ集合 (図ニ於テ斜線ヲ施シテナイ部分) ヲ D トスル。



$y_0/x_0 \cdot \frac{n+1}{2}$ ヲ D ノ中ニ取り、 $x(y_0) = x_0$ ヲ満足スル

$$\frac{dx}{dy} = \frac{y}{A(x)y + B(x)}$$

ノ解ヲ $y_0, 0$ ヲ結デ線分ニ沿ツテ追跡スル。円 C_1, C_2 ノ半径 δ ハ幾ラ小さクテモヨイガ、ソレニ對シテ $|x_0|$ ヲ十分ニ大キク取レバ、線分 Oy_0 ノ上デ $|x(y)| > R$ (R ハ十分ニ大キク與ヘラレタ数) ヲ満足スル。トイフコトハ x_0 ガ十分ニ大キイトキ $y(x_0)/x_0 \cdot \frac{n+1}{2}$ ガ D ニ属スルナラバ

其ノ解ハ $|x| > R$ デ分岐点ヲ持ツトイフコトニナル。

(ii) O ヲ中心トシ、 $\sqrt{\left|\frac{2b-n}{n+1}\right|}$ ヨリ大キナ半径 M ノ円 Γ ヲ描キ其ノ外部 $= y_0/x_0 \cdot \frac{n+1}{2}$ ヲ取り、 $y(x_0) = y_0$ ヲ満足スル (a)ノ解ヲ、 $x=0$ ヲ中心トシ x_0 ヲ過ル円周 $=$ 沿ッテ追跡スル (言ヒ換ヘルナラバ $x_0 = r_0 e^{i\theta_0}$, $x = r e^{i\theta}$ ト表ハシタトキ $r = r_0$ ト置キ θ ガケヲ変数ト考ヘルノデアル) サウスレバ $|\theta - \theta_0| < \mu$ デ

$$|y(x) - y_0| < \sigma |y_0|$$

ナル形ノ不等式が得ラレル。 σ ハ μ, M ニ関係スルガ M ヲ大キク取ルコトニ依リ σ ハ幾ラデモ小サクスルコトが出来ル。故ニ $y(x_0)/x_0 \cdot \frac{n+1}{2}$ ガ ~~施シタ~~ 部分ニアツテモ、其ノ解ヲ $|x| = r_0$ ナル円周ニ沿ッテ解折接続スレバ $y(x)/x \cdot \frac{n+1}{2}$ ガ D ノ中ニ現ハレルマウニナル。従ッテ其ノ解ハ $|x| > R$ デ分岐点ヲ持ツ。

(iii) 故ニ $|x| > R$ デ分岐点ヲ持タナイ解ニ對シテ $y(x)/x \cdot \frac{n+1}{2}$ ハ圖ニ於テ ~~施シタ~~ 部分ニナケレバナラナイ。其ノ解ノ近似展開 (2)ガ含ム任意常数 C ノ取ル値ハ $\arg x =$ 依テ変ルカモ知レナイガ $\nabla =$ 依テ C ノ取ル値ハ有界デアル。 $\arg x = \theta_0 + 2n\pi$ ノ時、 C ノ値ヲ C_n トスレバ $\nabla =$ 依テ $C_n = C_0 + 2np\pi i$ トナル。 $\{C_n\}$ ハ有界デナケレバナラナイカラ $p=0$, 即チ近似級数 (2)ハ $\log x$ ヲ含マナイ。サウスレバ $\nabla =$ 依テ C ノ値ハ方向ニ依テ変ラナイカラ

$y(x)$ は $x = \infty$ で一價トナリ, $x = \infty$ が $y(x)$ の極
テアルコトがナル。

尚最後ニ此等ノ結果ヲ証明スルノニモ常ニ解ノ存在定理
が基礎ニナツテキルコトヲ附加ヘテ置ク。